

令和4年度 家庭系焼却ごみ組成調査結果について

1 調査概要

目的

家庭から排出される、焼却ごみの組成等を把握することにより、ごみの減量化・資源化施策の効果などを検証し、今後の施策事業立案のための基礎資料を得るもの。

(1) 実施日（年2回実施）

令和4年5月30日（月）～6月3日（金）

令和4年9月26日（月）～9月30日（金）

<参考> 令和元年度実施日：令和元年6月10日～11日（年1回）

(2) 対象地区（地域特性や住居特性等により選定）

- ・ 戸建住宅地区
- ・ 集合住宅地区（家族世帯）
- ・ 集合住宅地区（単身世帯）
- ・ 商業地区
- ・ 農村地区

(3) 調査手法

各地域のごみステーションから採取したサンプル（1地区あたり約100kg）を分類し、重量比を算出する。

2 調査結果

(%)

(※2回実施結果の平均値) 重量割合

年度	以資源計物	生ごみ	食品ロス	不資源紙化	不資源布化	剪定枝	プラ製品	その他	資源物計	容器包装	可資源化	可資源布化	びん・缶
										プラ製	紙	布	
R4※	82.3	27.2	6.3	17.1	1.4	8.8	1.6	19.9	17.7	7.1	8.4	2.2	0.0
R1	79.4	30.4	8.5	14.0	0.7	1.7	-	24.1	20.6	9.3	9.5	1.6	0.3
増減 (pt) R1・R4比	+2.9	-3.2	-2.2	+3.1	+0.7	+7.1	-	-5.8	-2.9	-2.2	-1.1	+0.6	-0.3

<考察> 組成分析の結果

- ・資源物以外の割合では、令和元年度と比較して「生ごみ」が3.2%減、食品ロスが2.2%減となり、「剪定枝」が7%、「資源化不可紙」が3%増となった。  
また、今回新規調査区分とした「プラ製品」は1.6%となった。
- ・資源物の割合では、令和元年度と比較して「プラスチック製容器包装」が2.2%減、「資源可能紙」が1.1%減と混入割合が減っている。  
⇒CP茂原火災に伴い、市民の分別意識が向上しているものと推測される。

## 令和4年家庭系焼却ごみ組成分析調査結果

